

定例市長記者会見

日 時：12月22日(木) 午前11時～11時30分

場 所：本庁舎特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長

報道機関 中日新聞、朝日新聞、読売新聞、中部経済新聞

本日の案件は2つです。

1 番目が「ごみ処理の広域化について」です。平成10(1998)年に愛知県がごみ焼却処理広域化計画を策定し、一宮市と稲沢市のエリアで広域的にごみ処理を進めるという方針が示されました。これを受け、平成11(1999)年に尾張西部ごみ焼却処理等広域化ブロック会議が設立されました。当時は市町村合併前で、会議の構成自治体は、一宮市・尾西市・木曾川町・稲沢市・祖父江町・平和町の3市3町でした。しかし、一宮市が平成10年に、稲沢市が平成12(2000)年に新しくごみ焼却処理施設を稼働させた時期と、愛知県が広域化を打ち出したタイミングが重なりました。こうした背景もあり、首長が出席した会議は、合併翌年の平成18(2006)年の開催を最後に、それ以降は実務者レベルでの会議を続けていました。一宮市のごみ処理施設の安定稼働年数があと10年くらいという状況となり、いよいよ広域化の検討を始めました。10月20日に開催された会議で首長間の合意が行われ、議会への説明後のこのタイミングでの公表となります。合意事項は、一宮市と稲沢市が協力して広域化を検討することと、運営方式を稲沢市から一宮市への事務委託とすることです。他の運営方式として、複数の自治体で組合をつくる一部事務組合方式もありますが、今回は一宮市と稲沢市の2市だけのため、現時点では稲沢市が規模の大きい一宮市に事務を委託する方が良さだろうとの判断で、事務委託方式での検討を進めます。また、新たなごみ処理施設の建設予定地として奥町の環境センター敷地内を第一候補地とし、令和6年度末までに一宮市が候補地を確定することで合意しました。金額が非常に大きく、市民生活に与える影響も大きいため、関係各所と情報交換・意見交換をしつつ進めていきたいと考えています。

2 番目が「キャッシュレス決済ポイント還元事業を“4決済サービス”で実施します」についてです。1月5日から31日までの期間で4つの決済サービスによるポイント還元事業を実施します。これまでのPayPay、d払い、au PAYの他に、今回は新たに楽天ペイが利用できます。ポイント還元対象の決済サービスが4種類というのは、県内初です。昨年度までもキャッシュレスポイント還元事業を実施していました。今年度はアナログな消費刺激策をとということで、「100+1日間買い物ラリー」事業を実施しました。レシートをためて2万円以上の買い物をした方に最高1万円相当のふるさと納税返礼品が当たるというものです。買い物ラリーの応募状況については、当選者数1万人のところ、約4万件の応募がありました。1人平均2口の応募で、約2万人から応募があったと事務局では推計しています。人気の記念品はふるさと納税の返礼品と同様に、食べ物の人気が高く「愛知県一宮市産米

あいちのかおり」と「ココイチ特選無洗米（国産米）とレトルトカレーセット」でした。この施策に加え、国からの新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を財源として、今年度初めてのキャッシュレス決済ポイント還元事業を実施します。ポイント還元率は10%で、ポイント付与の上限は5,000円相当です。還元率20%の自治体もありますが、還元率が高いと買い物の回数が少なくてもすぐに上限に達してしまいます。市としては、買い物の機会を増やし消費活動を刺激するという観点と予算の兼ね合いから、今回も10%還元で実施します。新たに楽天ペイが加わって4つの決済サービスとなり、使いやすくなっていますので、多くの市民の皆さまにお買い物をしていただければと期待しています。

以上、本日の説明でございます。

■ごみ処理の広域化について

（記者）広域化により、一宮市と稲沢市の市民にどのような影響があるのでしょうか？

（市長）稲沢市のごみ焼却施設がなくなれば、稲沢市民の皆さまによるごみの持ち込みの利便性が問題となります。また、一宮市にごみ処理施設を建設すれば、処理量がこれまでの稲沢市の分も含め4/3倍になりますから、ごみを搬入するトラックの交通量が増えるとともに、発生する焼却灰などについても包括的に考えなければなりません。これらの問題は、1年余りの時間をかけ広域化計画を作成する過程で議論していきます。

（記者）過去に稲沢市の環境センターで火災が発生した際、一宮市でごみ処理を受け入れていました。稲沢市での火災はダメージも大きかったようですが、そういったことも広域化に影響するのでしょうか？

（市長）20年程前にダイオキシン対策を行う中で、小さなごみ処理施設を建設しては対応が難しいので集約しようという流れができました。それに加えて近年では、廃棄物が多様化したことで火災対策にも高度な技術が必要となりましたので、1カ所に集中して処理するということが求められています。

（担当）稲沢市の火災では広範囲に影響が出たようですが、そのこと自体は広域化には関係していません。

（記者）広域化は、費用がかかることを合同で行うことも目的にしているのでしょうか？

（市長）はい、そうです。環境省は、広域化を補助金支給の条件としていますので、かつてのように各自治体が単独でごみ処理施設を建て替えようとしても、補助金は支給されません。

（記者）処理施設を建設するため、環境センターの敷地を拡張するのですか？

（市長）環境センターの周囲に多く設けているビオトープや緑地といった緩衝地帯を、ある程度削らなければいけないとは見込んでいますが、敷地の拡張の必要性についてはこれから検討します。

（記者）家庭ごみの量はどのように変遷していますか？

（担当）コロナ禍により家庭ごみの量が増える一方、事業者が排出するごみの量は減って

いました。最近はその状態が落ち着き、家庭ごみが少しずつ減る一方、事業者のごみが増えてきています。

(記者) 新しいごみ処理施設の運用に負担を減らすため、両市民に、ごみの分別や減量の徹底を啓発するといったお考えはありますか？

(担当) はい、あります。両市民の皆さまに呼び掛けは必要と考えています。単なる処理施設の建て替えで終わらせず、分別や減量の普及啓発活動を行っていく必要があると考えています。

(記者) 現行施設の稼働と新しいごみ処理施設の建設を、同じ敷地内で同時に行うこととなりますが、エコハウスの運営に影響はありますか？

(市長) 市民の皆さまが日頃から利用する施設についても、運営面などにつき包括的に検討し、負担をおかけすることのないようしっかりと目配りし議論してまいります。

■ 駅前にぎわいについて

(記者) アスティー宮のリニューアルや尾州ビレッジのオープンについて、どのような印象をお持ちですか？

(市長) 駅前で古い建物が壊された後、駐車場になるケースが多いことを考えると、商業施設が増えることは歓迎すべきことです。今後、駅のにぎわいだけでなく、商店街や真清田神社といった中心市街地全体の活性化に繋げていくための第一歩として、期待しています。

(記者) まちなかウォークブル社会実験や地下駐車場の再開発の他に、駅前にぎわいをもたらす事業はありますか？

(市長) 商工会議所さんと組んでの一宮モーニング関連や、商店街さんと組んでのお祭りといったイベントの実施です。国際芸術祭「あいち 2022」の期間中に、本町商店街と独自企画を行いましたし、七夕や初詣以外にもできるだけにぎわいを創出できるよう、取り組んでまいりました。

(記者) 2年前の市民アンケートでは、「駅前にぎわいがない」という回答が約7割を占めました。それ以降、にぎわいは増えているのでしょうか？

(市長) アンケート結果で10～20代の方たちからは、好意的な回答を多くいただきましたので希望を持っています。10代の方たちが、シビックテラスで勉強やダンスなどをしながら楽しそうに過ごしているのを見るとうれしく思います。まちづくりが徐々に進むことで、そうしたことが銀座通りや本町商店街まで広がってくれればと思います。

(記者) 駅前の地下駐車場も含めた銀座通りの再開発について、何か具体的に事業化していますか？

(市長) 今後、関係各所と合意形成を図ることになります。市民の皆さまと意見を交換するには、始めに市から、ある程度構想をまとめたものをお示しする必要があります。老朽化が進む駅前の地下駐車場の再開発も含め、まずデザイン懇談会で幾つかアイ

デアを出していただいた後、関係各所や市民の皆さまとの合意形成につなげていく
というのが令和5年度のステップです。